

・「あーと・わの会」20年のあゆみ 目次・

01	理事長の挨拶：平園賢一	2
02	「あーと・わの会」20年のあゆみ 制作の経緯	3
03	会の沿革	3
04	会の年譜	4
05	会の発足	4
	(参考) NPO 法人あーと・わの会設立趣意書	6
06	新旧理事長、事務局長による鼎談：平園賢一・野原 宏・堀 良慶	6
07	会の目的・理念・案内	10
08	(1) 会員のエッセー	17
	(2) 特別投稿：コレクター、わたくし美術館、組織運営	77
	草薙に潜む鬼の如きコレクターの話：コノキ・ミクオ	77
	わたくし美術館ことはじめ：実川暢宏	80
	堀 良慶様 20年史作成、ご苦労様です。そしておめでとうございます。：中尾誠男	81
09	運営	82
10	美術普及活動	95
	10-(1) 「わの会」コレクション展、画集制作	95
	10-(2) 図書『わの会の眼』『わの会の眼Ⅱ』発刊、「わの会」展・ 「わの会の眼」展・名品展開催	103
	10-(3) わたくし美術館・画廊	106
	10-(4) 200文字、画家5,500名の略歴	112
11	行事	115
	11-(1) 会報	115
	11-(2) 会誌	116
	11-(3) 放談会	120
	11-(4) 広報・ホームページの開設と運営	125
	11-(5) 講演会	128
	11-(6) 会員の著作・資料	131
	11-(7) 寄付・表彰	134
	11-(8) U氏コレクションの寄贈について	135
	11-(9) レクレーション	137
12	その他の組織運営	137
	12-(1) 会計、監事、総務	137
	12-(2) 会議	138
	12-(3) 事務局	140
	12-(4) NPO	141
	12-(5) 組織改革	143
	12-(6) 会員数	145
	12-(7) ボランティア	147
	12-(8) 縁の下の力持ちの座談・放談： 鈴木正道・川崎光草子・佐々木征・宇都宮義文・事務局	148
13	会の会則	153
	編集後記	159

01 理事長の挨拶

ここに『「あーと・わの会」20年のあゆみ』（以下、20年史）を刊行することになりました。まずは全会員の皆さま、ボランティアとして様々な役務を担当していただいた事務局の皆さま、そして高所大所から貴重なご意見とご支援をしていただいた外部顧問の皆さまに心から感謝申し上げます。

ワイガヤで楽しい会、100点を求めない会、一人は万人のため万人は一人のたを理念に、平等で健全な運営を継続しながら民間レベルでは類のない、数多くのイベント（展覧会、放談会）と月報を内外に発信してきました。

その反響は大きく文化芸術基本法を先取りした民間レベルでの美術啓蒙の先駆けとしての役割を少なからず果たしてきたと自負しています。

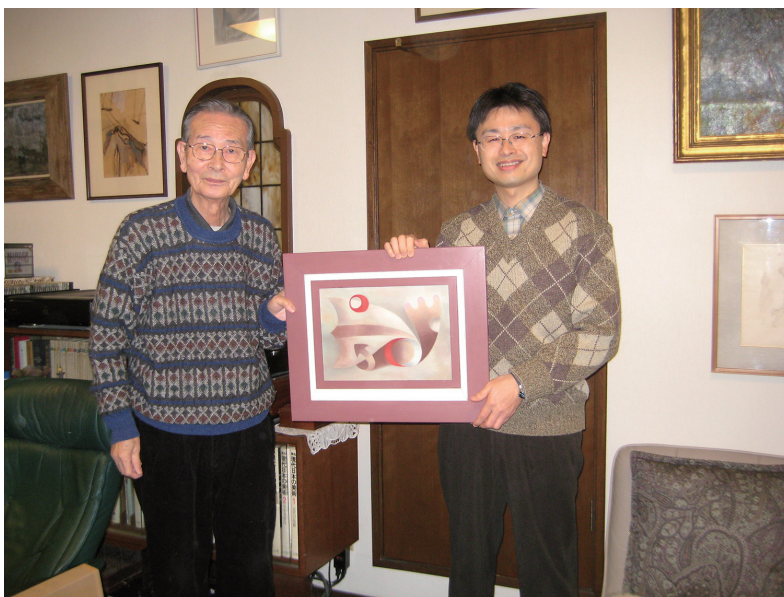
この20年史には机上で知ることのできない現場で培ったノウハウが詰まっています。20年間の数々のイベントを、その企画から開催、その後の評価に至るまでを克明に記録分析し、そのエッセンスが凝縮しているのです。読まれた方はその内容に“我が意を得たり”と感じて下さるのではないかと確信しています。そして個々人の趣味の領域を超えた美術啓蒙という眼前に広がる社会貢献を試みたくなると思います。

これからは自らの楽しみが社会貢献につながる活動が注目され、必要になってくることでしょう。この20年史がそのお手伝いの一助となり、市民参加の美術啓蒙の指南書として、後世の良き道標となれば望外の喜びです。

理事長 平園賢一



菅野圭介展（横須賀美術館）2010年4月29日
左から 平園賢一さん、故梅野 隆さん



岩本 昭さん訪問 2009年1月24日
左から 故岩本 昭さん、平園賢一さん

02 「あーと・わの会」20年のあゆみ 制作の経緯

2021年はじめ、平園理事長より、会の20年記念行事としての検討のご指示があり、コロナ禍、会報に2ヶ月ほどの期間を掛け、募集されました。募集10件ほどの中から、田村理事提案の『「あーと・わの会」20年のあゆみ』（以下、20年史）の制作が選抜され、理事会、総会でも承認されました。

2021年8月には理事長より“会の行事、美術普及活動の実績、内容、ノウハウについて後世に残すよう”にとご指示いただき、並行して田村理事により、20年史の項目等についても起案され、2021年8月には20年史制作チームとして編集委員会が発足、スタートしました。

20年史は、会の内部資料として活動の記録を残す目的で制作されます。コレクター、わたくし美術館、美術普及活動、組織運営にとって、又趣味の会の運営にとって少しでも参考になれば！との思いでも制作されています。

20年史に先立ち、会の「行事概要」を、2017年よりコツコツ事務局でメモ書きから作成スタートしています。会員の皆さんが、積み重ねてきた実績、ノウハウに加え、担当、理事の意見、提案の内容、そして新旧両理事長の指示事項がその骨格です。

背景に2018年6月の理事会、総会でNPO返上、任意団体選択、大幅人事変更が決定。新しい組織「あーと・わの会」に生まれ変わりました。新組織、新担当の参考になればと作成されたものです。この「行事概要」が20年史の基礎になっています。「行事概要」は「わたくし美術館の会」の7年間、NPO法人あーと・わの会の8年間、任意団体「あーと・わの会」の4年間の計19年間の集大成です。

尚、当レポートの内容は3年ほどかけ、会誌、会報に事務局便りとして掲載され会員の皆様の眼を一度通っており、チェックいただいています。その内容を当20年史には短くまとめています。

制作の資金の手当では、1 会の一般経費から捻出 2 会員による寄付、が主体です、U氏基金からの間接的な寄付が柱となり、加えて此木紀子さんからは間接的に作品を通じての寄付、加えて、平園理事長、野原前理事長、堀事務局長3名からの寄付により、資金手当ができています。

これらは2021年6月の理事会、総会及び2022年2月の理事会で20年史の制作に充てることが承認されています。

「あーと・わの会」20年のあゆみ 編集委員会

03 会の沿革

- (1) 「あーと・わの会」は2003年5月10日に任意団体、コレクターが創る！「わたくし美術館の会」としてわたくし美術館4館とコレクター30名で立ち上げられたボランティア組織で絵画・彫刻の美術普及、趣味の会を源とする。
- (2) 2010年8月、任意団体からNPO法人あーと・わの会が発足、会員数70名前後（内わたくし美術館15名、コレクター50名、その他の構成メンバーにより、美術趣味、美術普及活動を目的に非営利活動、社会貢献組織として設立された。NPO格取得により、信用ができ、市民への行事の開放が進み、その結果、各行事が充実、会員数も含め安定した組織となった。
- (3) その後、関係者の高齢化による影響と、事務局に代表されるように一部に作業集中が進み、維持が難しく重荷となっていた。作業の簡便化、若返り、分散も目的に2018年6月30日にNPO格を返上、同年7月1日任意団体を選択した。
- (4) 任意団体「あーと・わの会」として2018年7月1日会員数70名、コレクター50名、わたくし美術館20館（未公開、ネット上美術館を含む）で絵を楽しみ、美術普及を目的とし、趣味の会、ボランティア組織として発足した。

04 会の年譜

会員敬称略

西暦	年譜
2021	8月柏市民ギャラリー・パレット柏で名品展（「わの会の眼Ⅱ」展）を開催、コロナ禍の開催であったが1,601人の入館者 会員の著書、資料は発足以来累計107冊を数える
2020	コロナ禍美術普及活動、行事に影響を与えた。入館者数は半減、理事会、総会は書面実施。200文字5,000名作家略歴の原稿作成
2019	HPアクセス数（クリック数）は1,100件/日、訪問者数約60人/日 わたくし美術館の会員19館へ増加
2018	NPO格返上、「あーと・わの会」任意団体選択、平園理事長就任 入館者数6万人/年。会誌、テーマ→自由投稿へ。HPにコラム欄設置し人気
2017	『わの会の眼Ⅱ』発刊
2016	「わの会」コレクション展を中断、「わの会の眼」展に発展的移行、アンケート実施 200文字1,600名作家略歴の原稿作成
2015	2015、16年公立美術館2館で「わの会」展、「わの会の眼」展開催（入館者数3,414人、1,322人） 2015年U氏から多額の寄付金、HPへのアクセス数390件/日
2014	HPリニューアル
2013	マスコミ担当を置く、アンケート実施
2012	10周年記念行事『わの会の眼』書籍プロジェクト組織を発足、発刊
2011	各行事の市民の参加者数等、美術普及活動の数値化を取り進め
2010	NPO法人あーと・わの会登録、設立総会 表彰制度新設
2009	5月NPO法人設立準備委員会が稼働。HPリニューアル
2008	5月総会においてNPO法人設立準備委員会を開設
2007	会員数65名、年間予算65万円/年。60名を超えメイン行事推進の最低限の資金を確保 第3回「わの会」コレクション展は、東京での開催
2006	（この頃、他の3つの絵画趣味の会が解散又は縮小）
2005	第2回「わの会」コレクション展（松山庭園美術館） 鑑賞教育 2月10日 茨城県取手市白山西小（松尾陽作）
2004	第1回「わの会」コレクション展開催、鑑賞教育に作品提供 わたくし美術館会員13館へ 放談会開始 HPアップ
2003	実行委員会、会報、会誌を順次立ち上げ。野原理事長より以後毎年寄付金 5月1日任意団体「わたくし美術館の会」発足、野原理事長が就任 会員数30名、わたくし美術館4館
2002	「わたくし美術館の会」設立準備委員会設置 7名が発足委員 故尾崎正教さんのご遺族から「わたくし美術館の会」の名称を使用許諾

05 会の発足

2002年10月31日「わたくし美術館の会」第1回発足準備委員会が開催され、会の発足に向かって、10回ほど準備委員会が開催、具体案がまとめられてゆきました。発足準備委員会メンバーは野原 宏、平園賢一、寺嶋哲生（栗俣佳代子）、岩本 昭、桜井佐七、梅野 隆、猪羽恵一、大竹永明、松尾陽作、堀 良慶です。行われた発足準備委員会への参加者は、此木紀子、小倉敬一らです（以上敬称略。内、わたくし美術館は4名です）。

2003年5月10日任意団体、コレクターが創る！「わたくし美術館の会」発足。理事長に野原 宏さんを選出、事務局長に堀 良慶さん、会計に小倉敬一さんを任命。行事担当を次々と任命されました。

会の名称について、「わたくし美術館の会」の主宰、故尾崎正教さんのご遺族から「わたくし美術館の会」をいただきました。事務局の堀 良慶さんは旧「わたくし美術館」の元理事であり、快く会の名称

の使用について2002年許諾されました。「わたくし美術館の会」の名称はその後、コレクターの会員が多くなり、コレクターが創る！「わたくし美術館の会」に改名されて発足。尚、発足時と基本的に変わらないNPO法人あーと・わの会の設立趣意書をご紹介します（P.6）。

会の基本は、趣味の会、ボランティア組織、わたくし美術館とコレクターの会、“わ”がシンボルマークであり、理念を定めました。

行事は会報、会誌、コレクション展、講演会、レクレーション等です。その後、放談会やHP（ホームページ）が加わり充実した行事運営となってゆきました。



わたくし美術館の会 発足総会 2003年5月10日 日本教育会館（東京都千代田区）

後列左から 伊藤厚美、大竹永明、本内義彰、佐藤忠雄、小倉敬一、岩本 昭、寺嶋哲生、須藤一郎、渡邊 葵、三好寛佳
中列左から 堀田晃久、野原 宏、大川栄二、此木紀子、秋山俊幸、梅野 隆、畝 一雄、堀 良慶、山下 透、古川洋一、平園賢一
前列左から 木村正子、内田 久、木村悦雄、猪羽恵一、坂口 勤、栗俣佳代子、福嶋誠二（以上敬称略）



わたくし美術館の会 発足総会 2003年5月10日 日本教育会館（東京都千代田区）

左から 梅野 隆（東御市梅野記念絵画館館長）、大竹永明、野原 宏、渡邊 葵、大川栄二（大川美術館館長）（以上敬称略）

(参考)NPO 法人あーと・わの会設立趣意書

2010年5月16日
NPO 法人あーと・わの会

1. 設立の趣旨

この法人は、主に美術コレクターとわたくし美術館の共同作業により、一般社会に対して、美術品の公開、美術品の有効活用、埋もれた美術品の発掘顕彰に関する推進とその支援事業を行い、美術普及の実現に寄与することを目的とする。

具体的な活動は次の通り。

- ① 質の高いコレクションの公開、美術普及活動の推進及び表彰
- ② 講演会の開催
- ③ 埋もれた作家の発掘、顕彰、普及
- ④ ホームページ（HP）による活動状況の公開
- ⑤ 作品持ち寄り放談会
- ⑥ 会誌・図書の発行
- ⑦ 上記の目的を達成するために必要な事業

2003年5月10日、任意団体、コレクターが創る！「わたくし美術館の会」、略称「わの会」として設立、主に美術コレクターとわたくし美術館の共同作業により、会員どうしの情報交換、懇親を実施、美術普及活動を推進してきた。

2010年2月現在、会員67名、わたくし美術館13館、内訳コレクター47名、作家7名、美術愛好家4名、画廊3名、美術研究者2名、修復家1名、額縁制作販売1名、美術普及家1名、美術館準備1名。

さらに、活動範囲を拡大のため、特定非営利活動法人を取得して美術普及活動の推進とその支援事業を行う。これら美術普及活動の推進を図り“一つの街に一つの美術館を！”という「わたくし美術館運動」についても推進してゆきたい。

2. 申請に至るまでの経緯

2003年5月10日、任意団体「わたくし美術館の会」設立その後、コレクターが創る！「わたくし美術館の会」、略称「わの会」として美術普及活動推進。

2008年5月 総会にて、特定非営利活動法人格取得のための研究、調査、準備活動を承認

2009年5月 NPO 法人あーと・わの会発起人会開催（設立準備委員会）

2010年5月 NPO 法人あーと・わの会設立総会開催

06 新旧理事長、事務局長による鼎談

開催日：2022年3月6日

出席者：平園賢一さん（理事長）、野原 宏さん（最高顧問）、堀 良慶さん（事務局長）

◎「あーと・わの会」の成り立ち

2023年で結成20周年を迎える「あーと・わの会」。コレクター70名前後が所属する会としてこれまでの歩みを振り返るべく、同会を牽引してきた3人の立役者にお話を伺った。そもそも3人の出会いは？

堀： 私が野原さんに初めてお目にかかったのは東御市梅野記念絵画館でした。平園さんには神保町の画廊で出会いました。お二人とはそれからの付き合いです。

野原：堀さんとの出会いにご縁を感じています。当時、京橋で美術研究藝林という画廊を経営していたこともある梅野 隆さんから、自分も応援するからコレクターの会を立ち上げてみたらどうかと背中を押され、私自身も携わることになり、堀さんには事務局をお願いして引き受けていただきました。

平園：当時、作者不詳の絵を独自に調べていて、たまたま読んでいたのが岩本 昭さんの本でした。この人だったら作者がわかるかもしれないと勇気を出してアポを取りご自宅まで伺いました。岩本さんは「いい絵だね、でも作者はわからない」と。それで梅野さんを紹介されました。梅野さんも「作者は不明だがいい絵であることは間違いない。実はこういう作品が大事なんだよ」と言ってくれて、僕はそこからこの道に入りました。

梅野さんは、今の日本美術の歴史は慟哭の歴史であると語っていました。美術には1本の柱があって、これは歴史に名を残した評価が定まっている美術家たち。我々民間コレクターは柱ではなく壁の部分を担当していく。世に埋もれた力ある物故作家はたくさんいる。それを自分で調べて検証し美術館クラスまで持っていくという蒐集方法もある。平園くんにはそれが向いていると思うよ、と。

埋もれた作家の作品を扱う画廊があるのが神田神保町。当然コレクターも集まってくる。蒐集作品について自分だけで調べることに限界がありますが、神保町に来ている同類の人たちに相談することで交流が広がっていき、堀さん、野原さんとも知り合いになりました。余談ですが、作品を購入しようと画廊を訪れると、先に堀さんに買われてしまっていたことが何度かありました（苦笑）。



平園賢一さん

「あーと・わの会」発足までの具体的プロセスは？

堀：「あーと・わの会（以下、わの会）」ができる前に、私自身は「柏わたくし美術館」をオープンしていました。尾崎正教さんの著書『わたくし美術館』を読んで感銘を受け、尾崎さんに師事して「わたくし美術館の会」を全国に拡大していきたいという夢がありました。2002年から2003年にかけて、わたくし美術館にコレクターを加え、協力しあう会を模索、声を掛けたところ、多数のコレクターが入会してくれました。そして、わたくし美術館4館とコレクター30名で「わの会」の源となる、任意団体「わたくし美術館の会」がスタートしました。

◎「100点を求めない、ワイガヤの会」を目指す

2018年、平園新理事長になったことを機に掲げた理念が「100点を求めない、ワイガヤの会」。このユニークなフレーズは会員のスタンスから生まれた。

野原：「ワイガヤの会」は、いくつもの傑作を掘り起こした岩本 昭さんの教えがもとになっています。岩本さんは学芸員にも引けを取らない知識と行動力でこれぞという作品を蒐集されてきた人。皆で1枚の絵を囲んでワイガヤ（ワイワイガヤガヤ）するのが一番の勉強になると言われ、放談会では毎回素晴らしいやりとりを拝見させていただきました。会の発足当初に岩本さんをはじめ熱量のある方々に巡り合ったことが何よりもわの会の基礎になっています。

そして「100点を求めない」にも深い理由がある。

平園：ネットやSNSのコメントは二極化していて、0か1かどちらかで、自分と考えが違う相手を徹底的に攻撃する。それは100点を求めているから。でも実際に会って話すと、相手に100点なんて求めない。この人が好きな絵は自分には合わないが相手を嫌いになることはない。付き合っていくうちにその絵がだんだん良く思えてくることもある。他者に「100点を求めない」ことで円滑な関係になれる。いわば処世術です。



野原 宏さん

野原：堀さんは誰に対しても同じように接してきました。いわば中道をゆく人。作品の真贋や優劣は口外しない。会員同士の作品の交換は金銭を伴わない。展示会は行ってもオークションはしない。会員間で切磋琢磨し、情報交換をする。堀さんのサラリーマン時代の経験が会の運営に活かされたと思います。事務局長に堀さんが就いてくれたことに心から感謝しています。会を今日まで継続してこられたのは堀さんの努力と人柄のおかげです。

堀：中道というのは、平園さん、野原さんの根本的な人柄。私は指導してもらい、そのようにやらせていただいています。私にもそれに近い心はどこかにあるのかなと思います。発足時は会員数が30数名でしたが、その人数だと会の運営が厳しいので、思い切って70名前後まで増やしました。

会員が知人に声をかけてくれたり、私のところ（柏わたくし美術館）へ来た人を勧誘しました。理事と各行事担当者については志願者を募るかたちで進めてきました。一般的に趣味の会はそう長く続かないと聞いていましたが、ご指導をいただきながら20年を迎えられそうです。

「100点を求めない、ワイガヤの会」は奥が深い言葉です。他にも「一人は万人のために、万人は一人のために」「小乗的じゃなくて大乘的にいきましょう」という理事長のモットーがあります。

◎「あーと・わの会」20年のあゆみ 制作のきっかけ

野原：わの会発足時、梅野さんから「こういう会の記録は残りにくいものだから記録を残すことが大事」とアドバイスされたという。堀さんはその教を律儀に守ってきた。堀さんがコツコツ残してきた20年間の記録は膨大で、この本にまとめきれないことは他にもたくさんありますが、後世に残すことでいつか役に立てばいいなと思っています。

平園：堀さんは20年間、わの会の和を保つために尽力してくれました。問題に直面することもありましたが、解決するのはいつも事務局である堀さんでした。その当時の記録を読めば、当事者にはわかるはず。わの会は公平・公正の会。いつでも中道を目指しています。

堀：そして理事長から依頼されたのが今回の『「あーと・わの会」20年のあゆみ』（以下、20年史）です。何かの都合で会が無くなったとしても後生に残り役立つように、美術普及のノウハウ、わたくし美術館の会の運営方法、コレクター趣味の会の運営方法を記してほしいとご指示いただきました。



堀 良慶さん

平園：この本には趣味の会から見た、社会論、人間論、組織論が全て入っています。ビジネスでも応用が利くと思います。

2001年に文化芸術振興基本法ができたが、それが改正されて2017年に文化芸術基本法が制定された。その中に「民間の支援活動の活性化等」という条項がある。わの会の活動はロールモデルになるくらいノウハウがしっかりしているので、法が制定された時に、文化庁のヒアリングがあったほど。今後日本でも芸術文化の分野で社会的コミュニティーが増えてくるでしょうが、その際のいい指南書になるはずです。これを叩き台にして新しい展開をしていけばいい。理論書はたくさんあるが、現場の声が伝わるものはない。読む人によっては響く内容だと思います。

● 20年史に託した思いと「わの会」の未来

最後に「わの会」の未来について語ってもらった。

平園：ワイガヤで100点を求めない！新しい感性を持った若い人に担ってほしい。今最も若い会員で40代。中心層は60代～70代。メンバーは70名前後という絶妙な数。人数的には多くないけれど、コアな会すぎて広げると上手くいなくなる懸念がある。そういう意味では精鋭部隊。退会者はあまり出ない。今後新しい人が新しい会を作っていく可能性はあるけれど、我々の世代の会として一つの到達点。

そしてこの本がどう伝わるかが一番の未来。美術館館長、学芸員、美術評論家、文化庁の役人が読んでどう思うか。専門家の感想に興味があるし、文化芸術基本法への一つのアクションとなって、国と民間が一緒になって文化を推進していくきっかけになればいいなと思っています。

堀：尊敬してきました両理事長のご指示のもと、会員の皆様と共に楽しく、ワイガヤで汗をかきながら、独自の運営、行事推進で会は築き上げられてきています。当図書は、その現場で培ったノウハウの言語化を試みています。稚拙な言葉ですが、隠すことなく書いています。後の方に少しでもご参考になれば嬉しいです。

野原：今回の20年史の制作は会の活動の一つの集大成として位置付けており、事務局の仕事を見える化するものです。「わの会」の存在を世に、そして後世の趣味の会、コレクター、美術普及を志す方々に問う機会にもなると確信しています。



左から 野原 宏最高顧問（前理事長）、平園賢一理事長、堀 良慶事務局長

07 会の目的・理念・案内

(1) 会の目的

当会は、ボランティアの会、会員が美術を楽しむ美術趣味の会であり、美術普及の実現に寄与することを目的とする。(あーと・わの会 会則 第3条、P.153)

(2) 会の理念

シンボルマーク“わ”を理念とする。すなわち“わ”はコレクター&わたくし美術館と市民を結ぶ輪の“わ”、わたくし美術館の“わ”、平和の“わ”、和を以て貴しとなすの“わ”、角が無くて添い易い“わ”、和みしたいの“わ”、ワイガヤの“わ”等の願いが込められています。“わ”による美術普及を通じ“一人でも多くの方の役に立ち、ワイガヤで楽しい会、100点を求めない会、一人は万人のため万人は一人のため、幸せを願う精神”を基盤にすえた活動を目指しています。

(3) 会の案内

特徴

- 1 当会はボランティア組織(志願、出前、手作り、自腹)です。必要経費は予算化され実行、支払われます。
- 2 当会は趣味の会です。
- 3 コレクター、わたくし美術館を中心にした、作家、修復家、美術愛好家、画廊等様々な方の集まりです。
- 4 草の根美術普及の実現に寄与することを目的としています。美術の底辺の拡大にあります。
- 5 ワイガヤの楽しい会を目指しています。
- 6 会の基本は“会員は平等”です。物故作家も現存作家も、わたくし美術館もコレクターも、東京も地方も、ベテランも初心者も平等です。運営には会員平等、公平、公正を旨としました。避けられない結果の不平等については機会平等を優先、きめ細かく機会ある度に結果不平等のミニマイズを図っています。
- 7 情報はガラス張り、透明化された会です。個人情報、人事情報を除き、殆ど握拳することはありません。
- 8 担当は素人集団です。初心者の方も多く、レベルアップ中の方も見えます(中にはプロの方も見えますが、担当、理事も素人、未経験者が多い会です)。
- 9 会員は本業(仕事)を持っている方が多く、「あーと・わの会(以下、わの会)」を専任としている方は事務局を除きません。
- 10 予算の大半は年会費1万円/人と寄付(収入の10~20%)で賄われています。零細組織です。
- 11 多くの行事は手作り・出前・自腹で行われています。勿論、実費経費は支払われます。
- 12 資料・データ・レポートは完璧に越したことはありませんが、会の目的、体制等の事情から、100点満点を求めています。8年間ほどNPO組織として一般組織並みのレベルを目指した経験と実績があり、NPOの各種提出資料、定款、図書『わの会の眼』等外部に出た資料、出版物は高い評価を受けてきています。「わの会」のレベルは一般組織、趣味の会と比較して低くはありません。
- 13 2017年2月~2018年2月の1年ほど時間を掛け組織の抜本見直しを実施してきました。より簡便で、活動がより自由、提出資料も不要な任意団体を再度、選択しています。
- 14 当会は作品の鑑定機関ではありません、真贋については会としてタッチしません。又しない下さい。過去にも真贋発言、質のレベル発言で行事に参加しなくなり、退会された方がいることをご認識下さい。質についても言及しないようお願いしています。故岩本 昭さんから当会の活動に研究発表を入れないように、又研究の場にしないようにご指示いただきました。研究の機関、場は他にあります。
- 15 「わの会」会員は一人一人が主役です。
- 16 会が特定の方を支援することは避けています。一方会員が特定の方を支援することは、自由です。

主な行事の紹介

行事は、年月を経て、導入、改良、充実させ、独自なものにしてきています。加えて、一般市民向け

に行事を開放しています。下記1～7で分類しています（2010年から8年間ほどNPO格を取得、市民への開放を目指しました。下記分類はNPO時に用いられた項目です）。

〈活動に係る事業〉（あーと・わの会 会則 第5条、P.153）

- 1 コレクションの公開、美術普及活動の推進及び表彰
- 2 講演会の開催（総会、放談会、コレクション展開催時に合わせ実施）
- 3 埋もれた作家の発掘、顕彰、普及（HP、図書等を通じ市民にも情報開示されています）
- 4 ホームページ（HP）による活動状況の公開
- 5 作品持ち寄り放談会の開催
- 6 会誌・図書の発行
1～6は市民へのサービス、市民に開放された事業・行事です。
- 7 上記の目的を達成するために必要な事業として総会、理事会、会報、広報、アンケート等を実施。加えて新規事業、美術普及のインフラ整備として簡便で利用しやすい、わたくし美術館の作り方、200文字作家略歴、貸出可能作品データベース等についても取り進め、実施しています。

「行事概要」について

- 1 「行事概要」は会員が19年間にわたってコツコツ築き上げてきた事業、行事の“手作り”されたささやかな内容、ノウハウです。独自のものに成長してきています。
- 2 行事・事業は年会費1万円／人と寄付の予算で運営されています。ボランティア精神で出前、手作り、自腹で試行錯誤の上作成された言わば汗の結晶です。各行事は当初、梅野 隆さん、岩本 昭さんら先達はじめ現会員の多くの皆様、理事、担当、顧問等経験者のご指導、ご協力により、立ち上げられています。
- 3 行事によっては、立ち上がり時期には、失敗を避けるため他の会の良い所を参考にさせていただきましたが、多くの事業や行事は実質ゼロからのスタートです。コツコツとノウハウが積み上げられ現在では多くの行事、事業が独自のものとなってきています。見方を変えれば独自でかつ、過去に事例のない新規事業、誰もやったことがないコトの一面をも見せ始めています。リモートワーク、ネット美術館がコロナ禍で注目されていますが「わの会」では発足当初より、実質オフィスのない組織が特徴です（会議室は都度、喫茶店、貸会議室を利用）。メール、電話等のリモートワーク（ただし、テレワークは資金手当て、会員平等の前提があり未導入）にて実施、運営されています。会員の中にはネット上の美術館も存在します。
- 4 美術普及の旗のもと、世に問うような行事・事業を心掛けてきています。
 - ① 市民へコレクション展、放談会の一般開放、『わの会の眼』出版と企画展、HPのリニューアル、HP上にコラム欄設置。200文字5,500名作家略歴制作、牛歩の如く一步一步地道に活動の幅、開放度を高めてきています。
 - ② 会員の皆さん、そして担当の地道な努力によって未知の行事の領域に対し、勇気を持って実行され、問題点発生の度に多くの工夫がなされています。課題を抱え、解決しながら数々のノウハウの蓄積、知恵を出し合い、維持発展し、独自行事に成長、持続可能なノウハウも蓄積されています。
 - ③ 「わの会」は新しい行事に挑戦するとともに、日々改善が図られてきています。行事はルーチンワークによって維持されていますが中には深掘りし、普遍性を持つに至っているレベルの行事も出てきています。
 - ④ 「わたくし美術館」はコレクションを市民に公開、そしてその価値を問う、草の根美術普及が特徴。「わたくし美術館」とコレクターの融和、協同により、企画展等ができるように思います。
- 5 趣味の会は大体“曖昧な前提から出発して曖昧な結論のまま終わること。この時、曖昧な形で終わったにもかかわらず、とても上手く全体のバランスが取れていることが良い着地点（成功）”だと思っています。あまり作り込み過ぎないようにすべきです。
- 6 これらの各事業、行事についての評価は、会員の皆様の経験、立場、考え方によっても違いがあります。

偏り、混乱を避けるため、極力、客観性のある評価としてデータ（数値）化しています。又必要に応じ、アンケートも実施しています。会の衰微、隆盛は数値に現れてきます、一種のセンサーです。会員数、各行事への参加者数、美術普及活動件数等、最低限のデータを集めてきました。データは行事の実態を客観的に表しています。ただしデータ主義にならぬよう最低限にしています。

- 7 会の組織はシンプルです。理事長のもと、理事、会員と極力屋上屋を架さない、フラットな組織です。事務局は理事長の指示により、活動し、参謀役です。理事は担当を兼ね、理事でない担当も存在します。理事、担当も理事長の指示ラインにあります。
- 8 一人で担うことができない行事、事業、特に新しい行事、新規事業についてはチーム組織、プロジェクト組織を採用してきています。
- 9 当組織の設立、運営には **1** 故尾崎正教さんの美術普及の精神を取り入れ、行事の市民への開放、新しい「わたくし美術館の会」の活動の参考にしました。**2** 梅野 隆さん、岩本 昭さん等、コレクターの諸先輩らから物故作家中心の質の高いコレクション、美術への熱い思い、ご指導を受けてきました。**3** その後、現存作家コレクターの皆さんも入会いただき、エッジコレクター、現代美術資料センターの笹木繁男さん、多くの現代美術作家を世に紹介されてきた実川暢宏さんを顧問に迎えご指導、その思いも受け継いできています。
- 10 美術普及活動を通じ社会性を帯び、市民の参加数、HP へのアクセス数、マスコミ掲載数等も多く、公共性、公益性を帯びつつあります。
- 11 会則に示されている事業、行事に加え、当レポートではサポート事業を含めまとめています。会員の入会の条件、退会、役員、理事、監事の選任、総会、理事会等役割、運営、組織は会則に定められています。

会の業績・データの一部紹介

- 1 理事長のご指示に加え、関係者の努力により、19年間、無借金、無固定資産の健全経営を継続してきています。
- 2 予定された行事は担当、皆様の努力で事情が無い限り、継続実施されてきています。
- 3 収入の根幹をなす年会費、収入は会員数、寄付で決まります。直近の会員数は64～72名前後で安定しています。寄付は収入の10～20%、一般NPO並みのレベルです。
- 4 NPOの経営、美術普及のデータ 2017年5月1日～2018年4月30日の実績事例です。
 - ① 市民の受益対象者数（参加者、入館者数）推定5万人
 - ② 美術普及活動68件
 - ③ コレクション活用54件、寄贈2件
 - ④ マスコミ掲載113件
 - ⑤ HPアクセス数650件/日（2017年7月～2018年5月）
 - ⑥ 会員数69名、わたくし美術館19館（2019年11月現在）。ここにはコレクターの趣味の会としては日本一の美術普及実績が示されています。NPOにおいてはデータの提出が義務付けられており、その結果、「あーと・わの会」の立ち位置がデータによって判明、明確になってきています。
- 5 組織変更、新規事業を適時に実施し会に刺激を与えてきました。NPO格取得で質の向上、信用、知名度向上を達成。『わの会の眼』発刊、「わの会」展と「わの会の眼」展の公立美術館での開催。広報担当を新設、HPをリニューアルし、コラム欄、200文字作家略歴、放談会記録等を掲載しています。

会の行事運営、注意すべき内容

- 6 「わたくし美術館の会」、NPO法人あーと・わの会では、野原前理事長の基本方針
 - ① 営業はしない。
 - ② 会員数の増加を急がない。
 - ③ 入会には会員の紹介、コレクターであることを条件にする。
 - ④ 会員の特定作家支援は自由です。会としては理解するが、会としては特定作家の支援には距離を置く。

- ⑤ 借金はしない。
- ⑥ 繰越金は抑え、経費はその年に極力使い切る。
- ⑦ 公私混同しない。
- ⑧ 権力には接近せず、特定思想、宗教には距離を置く。
- ⑨ 固定資産は持たない。

これら①～⑨は新組織でも継続されてゆきます。2018年6月、選択した任意団体「あーと・わの会」、平園新理事長の基本方針は

⑩ ワイガヤの楽しい会の実現

⑪ 100点を求めぬ会の実現です。又 “一人は万人のため万人は一人のため” が発表されています。そして「あーと・わの会」の理念も包含されています。

- 7 会員を客観的に見てみれば共通点は“絵好き”“絵キチ”又は“見せたがり屋”の多い集団のように見てもおかしくありません。実に幅の広い会です。小コレクターから大コレクターまで、初心者からベテランまで幅が広がっています。物故・現存作家コレクター、版画、水彩画コレクター等50名。「わたくし美術館」を運営されている方、関係者21名。作家、修復家、画廊、美術愛好家も見えます。出身、年代、経験も実にマチマチです。首都圏在住者が多いが地方に在住されている方もいます。ネット利用者、不使用者等。経営者、サラリーマン、公務員、医師等、経験、育ちも違い、立場の違う方々の集合体であり多様性ある観点を外さぬよう、公平、公正に配慮することが経営、事業、行事の成功のポイントとなります。コレクターでない方はコレクターの本質がわかりません。コレクターは、わたくし美術館の本質はわかりません。中央の方は地方の苦労がわかりません。不平、不満、コンプレイン、問題はコミュニケーション不足に加え、経験、立場の違いから理解不足、不満が発生してくることに思いを寄せることが必要だと思えます。
- 8 行事運営の注意すべきポイントはボランティアの本質を理解することです。特に会員の皆さんの多くは本業をお持ちです。出前、自腹、手作りのボランティア活動には尊敬と感謝の気持ちを持っていただければ担当のやる気、勇気となります。行事は充実し、小さな成功が続けば、後継者問題も解決され、持続可能行事として継続されてゆく可能性が高くなります。ボランティア活動に対して会員の皆様の理解、尊敬と感謝が醸成されてきています。当会は実質事務所を持たないリモートワーク組織です。利用するIT、ネットが進めば進むほどに個業が進みます。その結果、コミュニケーション不足が顕在化してきます。このことを認識、注意し、紙ベースの情報提供をあらためて重要視してきています。担当の在籍期間は6年／人です（累計年数281年÷累計人数47名）。尚、理事の在籍期間は7.5年／人です（累計年数322年÷累計人数43名）。
- 9 ① 真贋の判定は「あーと・わの会」が行う立場ではありません。
 ② 会員同士の又、所蔵品等の批判、特に質に関する評価は極力控えていただくようお願いします。
 ③ 批判、評論、争論は極力控えています。批判、評論、争論において世間一般常識レベルを外れないようお願いします。
 ④ 会員によるコレクション、美術普及活動、行事等の常識を超える評論は「あーと・わの会」としては問題発生を内在させる可能性があり、避けています。
 ⑤ 適度な良い批判、建設的なご意見、元気の出るポジティブ評論、提案においては自分ができる具体的内容、メリット、デメリットの提示があると受け入れやすいと思います。ある程度の自己宣伝等も受け入れやすく良いと思います。①～④はトラブル事例があり、結果、会の運営、行事に影響を与えます。批判、評論、争論は、利点を考慮しても、常識内に抑えていただく方が良いと思います。
- 10 「あーと・わの会」は既存組織と違います。ボランティア、趣味の会です。所属されてきた職場のやり方を強要、一般大組織との比較で過度と思われる不足や間違いの指摘、先の不安を煽ることはあまりしないようお願いします。常態化すれば会、行事運営は固く、担当の仕事は緊張、作業が多くなり、マンネリ、やる気の減退、結果、担当の早期退任に至り、特定者に作業集中、会は解散に向かいます。又ノープレー、ノーエラーで、批判や不安を煽るのがコンプライアンスであるような組織はいずれ淘汰されてゆくと思います。一方で批判による防御意識で作り込みが進まぬようにすべ

きです。過度な負担等、歪みが出てきます。趣味の会です。他の会との競争少なく、凸凹、ピンキリがあって良し、添いやすく、参加しやすい、あまり高度なものを求め、集めすぎではワイガヤ、穏やかな、あたたかい会の良い特徴がなくなります。高度な専門知識、美術研究を求める方には他の会を紹介しています。

- 11 マンネリ防止には改良、改善を図り、適時に担当の交代も実施してきています。又組織改革は不可欠であり、新規事業を積極的に取り入れてきています。

会員によるアンケート

2013年3月及び、2016年3月の2度のアンケート結果です（P.16）。各項目別にアンケート結果が記されています。当レポートにはその一部が掲載されています。このアンケートは会員の皆様によって各行事の評価が行われており、評価項目、魅力行事のランキングも示されています。各種実績やデータも含め、ある程度の客観性があり、偏りのある個人の意見よりも客観視、重要視される場合があります。当アンケートは会に存在する間違い指摘、批判対策のためにも実施されています。

評価項目、魅力行事のランクについて

2016年3月の結果を示してみます。P.16をご参照下さい。注意：数値はアンケート投票人数です。

評価項目ランク（2016年3月のデータ）

1位：コレクション活用実績…28人、2位：コレクション公開数…15人、3位：マスコミ掲載数…14人、4位：わたくし美術館入館者数…12人、5位：企画展開催数…11人、6位：ボランティア活動…9人

魅力行事ランク（2016年3月のデータ）

1位：コレクション展…29人、2位：会誌…28人、3位：会報…27人、4位：放談会…22人、5位：HP・広報…9人、6位：図書発行…9人、7位：講演会…6人、わたくし美術館活動…6人

行事は極力、評価、魅力ランクの高い順からご紹介致します。年会費1万円のコストパフォーマンスは“とても高い”という観点からも見ていただくようにお願いします。当レポートには皆様の貴重な年会費1万円／人がどの行事に幾ら使用されているかも示されています。ご参考にして下さい。

行事別1人当たり年間経費使用料（2019、20年を参考）

「わの会の眼」展 572円／人（5年に1度開催、経費から20万円出費）

注 意：2万円／点の出品料で出版料、企画展開催費用の大半を負担

参 考：「わの会」コレクション展のケースでは2,100～3,600円／人（3,600円は品川区民ギャラリー10万8,000円、広告12万円のケース）、1万円／点の出品料で大半賄う

会 誌：3,286円／人 4回／年発刊

会 報：2,571円／人（含む総会、理事会、アンケート、マニュアル、レポート、会費請求はがき、コレクション展募集、校正、広報、経営、各種連絡事項催促等）

放談会：1,628円／人

講演会：571円／人 2年に1度

広報・HP：571円／人

会議費：314円／人

事務局・会計：1,714円／人

総 会：当日の参加者による会費で賄っています

（計） 11,227円／人（1万円を超えた分は寄付金でカバー）

年譜及び会員数等

西暦年	主な出来事	会員数 名	わたくし 美術館 館数	画廊 数	組織 形態	会報 1回/月	「わの会」 コレクション展 巡回展合	会誌 回/年	放談会 回/年	HP アクセス数 クリック数	マスコミ 掲載数 件/年	来館来廊 人数	企画展 件数	作品 活用 件数	美術 普及 件数
2021	「わの会の眼II」展、名品展開催（入館者数1,601人）、コロナ禍 事務所に寄せられた会員の著書、資料は107冊 作家略歴5,000名	69名	18	5	任意	毎月	1	3	2	1,111件/日	274件/年	30,000人	31件	26件	28件
2020	コロナ禍美術普及活動、行事に影響を与えた 理事室、総会も書面実施 入館者数はほぼ半減	67名	19	4	任意	毎月	0	4	4	1,178件/日	277件/年	30,000人	35件	38件	28件
2019	「あーと・わの会」のHPアクセス数1,100件/日、訪問者数（読者）60人/日 わたくし美術館会員19館へ	69名	19	4	任意	毎月	0	4	4	1,137件/日	693件/年	60,000人	36件	41件	43件
2018	NPO格返上、任意団体選択、組織改革、若返り人事 野原理事長退任、平園理事長就任 作家略歴1,600名 会誌のテーマ設定を止め、自由投稿へ HPにコラム欄設置し人気	72名	15	2	任意	毎月	0	4	4	940件/日	373件/年	60,000人	32件	67件	37件
2017	『わの会の眼II』発行	72名	14	3	NPO	毎月	2	4	1	650件/日	113件/年	50,000人	32件	54件	36件
2016	「わの会」コレクション展を中断、「わの会の眼」展に発展的に移行 アンケータ実施	70名	14	3	NPO	毎月	1	4	4	444件/日	121件/年	60,000人	33件	77件	33件
2015	2015、16年公立美術館2館で「わの会」展、「わの会の眼」展開催 （入館者数3,414人、1,322人）、アンケータ	71名	13	3	NPO	毎月	0	4	4	390件/日	41件/年	30,000人	35件	50件	28件
2014	HPリニューアル	69名	12	3	NPO	毎月	3	4	4	250件/日	41件/年	19,000人	40件	49件	21件
2013	マスコミ担当を置く、アンケータ実施	68名	12	3	NPO	毎月	2	4	4	100件/日	22件/年	15,000人	38件	29件	17件
2012	10周年記念行事『わの会の眼』発行	65名	13	4	NPO	毎月	4	4	4			7,000人			
2011	各行事の参加者数等の数値化を取り進め 書籍プロジェクト発足	65名	11	6	NPO	毎月	3	4	4			5,130人			
2010	NPO法人あーと・わの会登録、設立総会、表彰制度 作家略歴制作発願	64名	10	6	NPO	毎月	2	4	4			3,820人			
2009	5月NPO法人設立準備委員会 HPリニューアル	73名	11	4	任意	毎月	1	4	4						
2008	5月総会においてNPO法人設立準備委員会開催を承認	72名	11	4	任意	毎月	1	4	3						
2007	会員数65名、第3回「わの会」コレクション展（東京）の開催 行事予算最低限確保	65名	16	3	任意	毎月	1	4	3						
2006	（アートNPO推進ネットワークが閉会）	60名	15	5	任意	毎月	1	4	3						
2005	第2回「わの会」コレクション展（松山庭園美術館） 鑑賞教育 2月10日 茨城県取手市白山西小（松尾陽作）	54名	14	4	任意	毎月	1	4	3		40件/年				
2004	第1回「わの会」コレクション展開催 鑑賞教育に作品提供 放談会 開始 総会に故尾崎正教さんのご遺族長男の尾崎正明さんを招待 アンケータ実施	46名	13	2	任意	毎月	1	4	3		約20件/年				
2003	実行委員会、会報、会誌を順次立ち上げ HP原稿（猪羽恵一） 5月1日任意団体「わたくし美術館の会」発足	30名	4	1	任意	毎月	—	3	1	HPリンク HPアップ					
2002	「わたくし美術館の会」準備委員会設置 7名 故尾崎正教さんのご遺族から「わたくし美術館の会」の名称を使用 許諾	～	～	～	準備 委員会	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～

注意 任意：任意団体、NPO：「Non-Profit Organization」の略であり、特定非営利活動法人

アンケート

敬称略・順不同

アンケート項目	小項目	2013年3月実施 (2012年度)				2016年3月実施 (2015年度)				考察		
		満足度 A/(A+B+C)%	満足 投稿件数A	まあまあ 投稿件数B	不足 投稿件数C	参加数 会員数68名	満足度 A/(A+B+C)%	満足 投稿件数A	まあまあ 投稿件数B	不足 投稿件数C	参加数 会員数67+2名	後、一部変更 評価
1 アンケート回答数												
2 経営												
3 担当・理事・ボランティア												
4 広報												
5 HP												
6 HP 画像	作品の画像を増											
7 総会												
8 総会会場	日本教育会館											
9 理事会												
10 会誌												
11 会誌発行回数	発行回数(回/年)											
12 会報												
13 コレクション展												
14 コレクション展講義												
15 コレクション展講演												
16 品川区民ギャラリー												
17 品川区民ギャラリー												
18 品川区民ギャラリー												
19 画像 (カラーコピー)												
20 巡回展												
21 放談会												
22 放談会回数	開催回数 (回/年)											
23 放談会記録	記録 (紙)											
24 放談会対策												
25 々												
26 々												
27 放談会開催場所												
28 わたくし美術館会議												
29 会議回数	開催会議数 (回/年)											
30 わたくし美術館増												
31 必要項目												
32 期歴会・レクレーション												
33 総会講演者												
34 会誌テーマ	2回目含む											
35 会誌テーマ	特別企画											

まとめ・総合 (2016年3月のデータ)

評価項目ランク	ベスト5	満足度	満足 762件(84%)	まあまあ 117件(13%)	不足 30件(3%)
魅力行事ランク	ベスト5	記入件数	1,812件	1人当たり記入件数	43件
注意			2004年(平成16年) 第1回目のアンケート(「わの会」コレクション展について) 実施		

注 ⑤の集計結果は2016年3月のデータに基づく

④